

I かのくもの子の会だよ

新年あけましておめでとうございます。
くもの子の会も新しいお友だちを迎えて、やっていますか。
今年も、仲間がふえていて、ぼちぼちと活動していければ
と思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。



〜 人とつながる事ができると、人生はもっと面白い〜

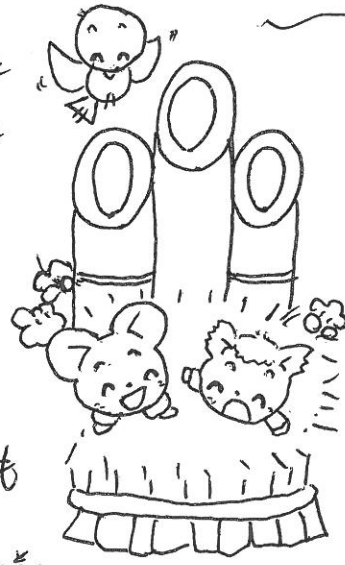
社会に出れば、一人で生きていくということはありません。友人、
上司、部下、同僚、取引先、近所の人たち……いろいろな人と関わり合
ながら、周りの人とつながりながら生きていきます。
子どもの社会でも同じです。

学校ではクラスメートと生活をともにし、クラブ、部活動の仲間と
切磋琢磨し、友人たちとほしゃぎ回る。一人の時間など、少な
ありません。

子どもの社会は、大人同様ニビアなものです。
思ったことをストレートに表現してしまう分、よりつらさも大きいとい
えるかもしれません。

その純粋さがゆえに、仲直りもあさりできるのですが。
ところが最近では、子どものころに経験を重ねず、大人になっても
周りの人とうまくつながれない人が、たくさんいます。

相手を思いやれず、自分勝手な考えを振りまいたり、礼儀
がなっていないからと、その場の空気を乱す言葉を平然と言ったり。
それを察知する人もなく、平然としていられる。「自分さえよければいい」



＜H.27.1.9＞
と若手人が非常に増えてきてしまっています。
そのため、ちよとした職場での失敗や周囲
への不満で、会社に行けなくなるとひきこも
り、また、転職を繰り返したあげく、正社員
雇用をされなくなってしまう若者もいます。
「彼らに足りないのが、「人とつながる感覚」です。
「勉強ができればいい」という考え方の弊害の一つ
といえるでしょう。
社会でメシを食うためには、人とつながるこ
ろが絶対的に必要です。
＜「メシが食える大人」に育つ子どもの習慣＞

保育とは、子どもの丸ごとを育てること。
しっかりとした身体の育ちを支え、
心豊かな人間関係を育て、
その上に、素敵な文化を通して
知的発達を促すという奥の深いものです。
子どもの人生を豊かなものにするためには、
今なにが必要かを判断し、
日々、選ぶ続けなければなりません。
子どもに関わるすべての者は、そのために学
ぶ必要があるのです。（絆を深め合う道程
抄）